大宮まっぷ新聞

Vol.014
2023年3月1日発行
OMIYA LIBRARY

図書館のご近所さん

造幣局さいたま支局

さいたま新都心駅より徒歩12分、豊島区からさいたま市大宮区に移転して7年目となる造幣局さいたま支局と造幣さいたま博物館。今回はこちらにおじゃまし、施設内を見学させてもらいながら広報の河野さん・加藤さん・佐々木さんにお話を伺いました。

―まず、どちらを見学させていただけるのでしょうか。

はい、最初は工場棟です。さいたま支局では主にプルーフ貨幣の製造を行っており、他にも通常貨幣や勲章の製造も行っています。まずは、1階と2階にあるプルーフ貨幣の製造工程を見てみましょう。

―同じ貨幣とは思えないほどピカピカで模様が美しいですね。(写真①)

機械で磨いていますが、けっこう手作業の工程も多いんですよ。次は通常貨幣の製造工程です、M2階へどうぞ。

―100円硬貨が次々と出来上がってくる様子を、見学通路から見ることができるんですね。(写真②)

100円硬貨の製造は、袋詰めまでほぼ機械で行うことができます。

―次のエリア(3階)では何を造っているのですか？

↑写真②

←写真①

こちらは勲章を製造しているエリアです。勲章を製造しているのは大阪の本局とさいたま支局ですが、自由に勲章の製造現場を見学できるのはさいたま支局だけです。職員の中には現代の名工に選ばれた技能者もいるんですよ。

では、次に博物館に行ってみましょう。こちらの博物館では、勲章や国内で開催されたオリンピック大会の入賞メダル、大判小判などの貴重な史料が展示してあります。

―何点くらい展示してあるのでしょうか

約1000点展示してあります。

―どれもすばらしいですね。注目の展示品はありますか

埼玉県ゆかりの記念貨幣や、人気の漫画『ONE PIECE(ワンピース)』を題材とした貨幣セットですね。是非ご覧ください。

―親子連れの方などに人気のコーナーがあるとか

貨幣や千両箱の重さを体験できるコーナーやトリックアートのフォトスポットで楽しんでいただいています。

↑勲章製造中の現代の名工

造幣局さいたま支局の主なお仕事

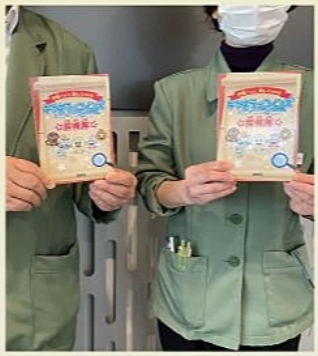
- 貨幣の製造
- 勲章の製造
- プルーフ貨幣(鏡のようにピカピカに磨かれた貨幣のこと)セットの製造、販売
- 金属工芸品の製造、販売
- 貴金属製品の品位証明

他にも…
- 造幣さいたま博物館
- ミントショップ(造幣局の売店)

―では、おすすめの本を教えていただけますか。

『キラキラコインズ探検隊―お金について、楽しくわかる―』造幣局／編　財務省理財局／編集協力　日本銀行／編集協力　2022

近年キャッシュレス化が進んできて、貨幣を見たことのないお子さんもいるそうです。そんな子どもたちにお金のことを知ってほしい、興味を持ってほしいという思いで紹介いたします。なおこちらの本は、大宮図書館に寄贈させていただきましたので、図書館で読んでくださいね。



―では最後に、春の造幣局といえば大阪の本局では「桜の通り抜け」が有名ですが、さいたま支局ではいかがでしょうか。

さいたま支局でも「桜のさんぽ道」があります。本局と比べるとまだ歴史が浅いので桜の木は幼いのですが、全長約140mの桜のさんぽ道には、早咲きのものから遅咲きのものまであり、八重桜を主とした約100本が順次見頃を迎えますので、十分に桜を楽しんでいただけると思います。

今年も4月に一般開放を予定しています。日程は決まり次第HPでお知らせします。

―桜の木が大きくなる頃にさいたま市の名所になるといいですね。

見学コースや子どもたちに人気の体験コーナーも充実しておりますが、事前の申し込みは不要です。

ショップではいろいろなお土産も販売しています。ぜひお出かけください。

造幣局さいたま支局
〒330-0835
さいたま市大宮区北袋町
1丁目190-22
TEL 048-645-5900（代表）

造幣さいたま博物館
TEL 048-645-5899（見学受付）
開館時間　午前9時～午後4時30分
休館日　毎月第3水曜日、年末年始のほか、臨時休館日あり

わたしのすきなえほん

シジミの「顔」って、どこにあると思います？

「そんなこと、考えたこともない」と、僕だったら答えます。こんな不思議なギモンを真剣に考えているのがこの絵本の主人公、カエルくんです。

「空は、どこからが空？」「〈ぼく〉とか〈きみ〉って、どういうこと？」カエルくんのギモンは尽きません。友達のネズミくんと一緒に、ああでもない、こうでもないと考えを巡らせます。

カエルくんたちを見ていると、「なんだか楽しそうだなぁ」と思うのです。日々忙しくしていると、考えることをめんどうくさがって「なんとなく」生きてしまいます。でも、「考える」って実はとても楽しくて、贅沢なこと。みなさんもカエルくんたちと一緒に、考えることのおもしろさについて「考えて」みませんか。

紹介した本
『かんがえるカエルくん』
いわむらかずお／作
福音館書店　1996年

大西民子の一首

春の夜の更けて明るき灯の下に
笑みつゝぞ吾ら論じつきなく

『回顧一年』より

新婚まもない頃のことを民子が詠んだ歌です。春のある日、灯の下で笑いながら語り合う夫婦の姿を描いています。民子の夫は小説家を目指しており、二人とも本や文学が好きだったことから交際がはじまったと後に民子は語っています。

参考資料
国立国会図書館デジタルコレクション『東京近郊一日の行楽』(https://dl.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/972006)
『企画展図録『東京近郊一日の行楽』―花袋が選んだ癒しの旅―』さいたま文学館／編集・発行　2004年
『企画展　大宮公園と文学者たち』さいたま文学館／編集・発行　1999年
『大宮文学散歩　大宮雑記帳(8)』秋山喜久夫／著　丸岡書店　1976年

ゆかりの文学コーナー『田山花袋と大宮公園』

田山花袋(1872～1930)という文豪を知っているでしょうか。彼は、主に明治から大正時代にかけて活躍しました。『蒲団(ふとん)』、『田舎教師(いなかきょうし)』などのタイトルは、聞いたことがある人は多いと思います。

さて、この花袋ですが紀行文にも才能を発揮します。『東京近郊一日の行楽』は、東京から気軽に行ける範囲で旅行したい人向けに書かれた本です。文学作品であると同時に、現在でも言う旅行ガイドブックとしても読まれていたようです。この中には、なんと大宮公園が取り上げられています！

花袋が言うには、この公園は「小説の一章二章は到る處(ところ)にころがつてゐる」そうです。実際に、森鷗外・国木田独歩・永井荷風などの著名な作家が、大宮公園を小説の舞台にしています。

花袋は、公園周辺にある松林、麦畑、水田などを紹介し、「静(しず)かな好い處(ところ)だ」と評価しています。田んぼの中を流れている用水は、田舎の里山らしい趣があり、草に朝露がきらきらと輝いているのはとても素朴で良いと感じたようです。彼にとっては、自然豊かな大宮公園は癒しの場所だったのでしょう。また、旅館では蛍を土産として持ち帰ることができると書いてあります。実際に、明治・大正時代まで、大宮では夏になると露店で蛍が売られ、風物詩だったそうです。

『東京近郊一日の行楽』をもっと読んでみたい方は、国立国会図書館デジタルコレクションにて無料で読むことができます。国会図書館の登録がない方でも見ることができるので、ぜひご自宅のパソコンなどから検索してみてください。

おおみや読書バトン

第9回 テーマ『地球』

先日、山形と宮城の県境にある蔵王を旅行しました。その目的の一つは、蔵王連峰の噴火活動によってできた火口湖を見ることでした。その湖を満たすモスグリーンの水は、神々しくもあり禍々しくもあり、地球のエネルギーを感じさせるものでした。

今回紹介したいのは、この火口湖が重要な舞台となる『キャプテンサンダーボルト』です。些細なことがきっかけで気まずくなった友人同士が12年ぶりに再会し、世界中をパニックに陥れかねないような事件に巻き込まれていきます。

この小説におけるテーマの一つは『環境保護』。昨今猛威を振るうコロナウイルスや異常気象を経験したうえで、敵キャラの歪んだ地球保全意識に突き動かされた行動に対し、私たちはただ狂気を感じるのでしょうか、それとも……

もう一つおすすめしたいポイントは、登場人物のセリフです。ぷっと笑えたり、ほほーと感心したり、いつか自分でも使ってみようと心のメモ帳に書き込んでいます。

そして気になるのが、このとてつもないミッションに立ち向かう主人公たちの原動力とは何かということです。ぜひ読んで確かめてください。

ということで次へのバトンは「原動力」です。

紹介者：ブロッコリー

紹介した本
『キャプテンサンダーボルト』
阿部和重／著　伊坂幸太郎／著
文藝春秋　2014年

「呪術師トロガイ」

老賢者が好きだ。強くて美しい主人公には憧れるが、それと同じくらい、あるいはそれ以上に主人公を支え行くべき道を指し示す老賢者に惹かれてしまう。

『精霊の守り人』をはじめとする『守り人』シリーズに登場する呪術師トロガイもその一人だ。

とにかくこの人、一筋縄ではいかない。都から追手を差し向けられても呪術でかわしてしまう。その上、追手の持ち金を巻き上げて「里に下りてうまい酒にありつける」などとのたまう。精霊の世界の住人と言葉を交わせるほどの能力の持ち主なのに、茶目っ気たっぷりのお方なのだ。

人々が運命に翻弄され、あるいは日々の暮らしに追われる横で、トロガイは今この世界で何が起ころうとしているのか、ということに耳を澄ます。人間ではない生き物ならこの世はいったいどの様に見えるのか考えながら、ずっと遠い先を見つめる。

この老賢者の目には、社会がどのように映っているのかと想像すると果てしないが、武器を持って戦う力のない彼女は、知力でもって世界の姿を誰よりもはっきりと捉えている。

弟子の背中で悪態をつく姿からは、とてもそんな風には見えないけれど。

紹介した本
『精霊の守り人』
上橋菜穂子／著　二木真希子／絵
偕成社　1996年

キャラもえ

ポルトガル語ってかわいい

ブラジルに縁が繋がり、2年間ベレンという北部のアマゾン流域の都市で仕事をしていました。その時のできごとです。

主食はパン、お米、パスタ、なんでもありの多民族国家です。主食として食べるパンは好みもありますが、フランスパンをよく食べます。大きさはバケットの1/3くらいでコロッとした楕円形のものがほとんどです。それをパン屋さんや、スーパーのパンコーナーで買うのですが、日本のバターロールのように袋に入っているのではなく、カウンターで「〇個ください。」と言って、買わなければなりません。ポルトガル語が流暢に話せるわけではないので、現地の人が話すのを観察して真似しようと聞いていると、「カレッカを10個ください。」と言っているようです。カレッカってなんだ？そんな単語は派遣前に勉強していたポルトガル語の本には載っていなかったと慌てましたが、とりあえず、真似をして「カレッカを5個ください」と言ってみると、無事に買えました。

カレッカ(careca)辞書で調べてみると、〈頭に髪の毛が無いこと〉という意味でした。「パンのことをいう」と言うようなことは、一切書かれていません。仲良くなったブラジル人や日系人にどうしてそう言うのかを聞いてみると、昔からそう言っているから分からないとのことでした。また、よく行くパン屋さんの、日本語を教えてと話しかけてくる店員さんにも尋ねたこともありますが、こちらもずっとそう言っているから解らないと言っていました。「うちの店長は剥げているよ」とも言っていましたが……

あるベレンの人がサンパウロへ行ったとき、いつものようにパン屋でパンを買おうとしたら「カレッカ」が通じず、思ったものと違うものがでてきたと言っていました。その人は「カレッカ(careca)って方言？ベレンでしか通じないの？」と驚いていました。ブラジル北部(パラー州ベレン)の方言なのでしょう。ベレンの人たちは、何の疑問も感じず、まして方言とも思わず、普通に使っていますから。

怪盗 ひつじ兄弟現る！！

※貸出処理に不備があるとゲートが反応します

心なごむ、ハナミズキの並木道

大宮公園と大宮第二公園を結ぶ公園連絡通路はハナミズキの並木道です。4月下旬から5月にかけて花盛りで、白から紅色へのグラデーションが美しい花びらは灯りのように点ります。ハナミズキは英語でdogwood(犬の木)といい、その語源には諸説あるそうですが、犬の散歩にぴったりの趣です。

みなかべった

鶯の鳴き声から始まる、美味な小説があります。寛政2年。剣術よりも鶯の次男坊・只次郎が、大切な預かり鶯が見つからず困り果てるところから始まります。顔見知りの鶯の糞買い又三に誘われるまま、神田川沿いの小さな居酒屋「ぜんや」へ足を踏み入れると、菩薩のごとき美貌を持つミステリアスな女性と出会います。お妙という名のその女性に、心も胃袋もつかまれた只次郎は「ぜんや」へ通うようになるのでした。

武士より商人になりたい只次郎をはじめ、近所のおかみ連中や大店の重鎮達など、このお店に集うのは個性的な人物ばかりです。それぞれ抱える悩みも様々ですが、「ぜんや」の料理を食べるとあら不思議。いつの間にか問題が解決してしまいます。身体をいたわる工夫と手間のかけられた料理はどれも美味しそうで、読むとにわかに日本食が食べたくなります。

特に只次郎は何でも美味しそうに食べ、食リポが大変上手です。いつも料理のシメには炊き立ての飯が出て来るのですが、ほふほふと頬張る描写だけでもおかずになりそうです。皆様はお米を1週間に何度食べていますか？面白く読みながら、自分の食を見つめ直す気持ちにさせてくれます。

実はこの小説、ママやプレママにもおすすめです。何を隠そう私は妊婦の頃にこの小説を読み、“日本食マインド”で適切な体重増加と血圧で過ごすことができました。さらに物語には「子を授かりたい」「つわりで食が進まない」「赤ちゃんが離乳食を食べてくれない」などママが共感できる話題が登場し、強く生きる江戸の女性達の姿に元気をもらえます。

紹介した本
『ほかほか蕗ご飯』
坂井季久子／著
角川春樹事務所　2016年

大宮図書館ホームページ

大宮図書館twitter

twitterではイベントやスタディーコーナーの待ち人数など大宮図書館の情報を日々つぶやいています。ぜひ、フォローしてみてくださいね！

この刊行物の書影画像はBOOKデータASPから引用しています。